

生徒の主体的な探求を深める総合的な学習の時間の授業
～地域リソースの活用と各教科との横断的な学習活動の工夫を通して～

日立市立日立特別支援学校 中学部

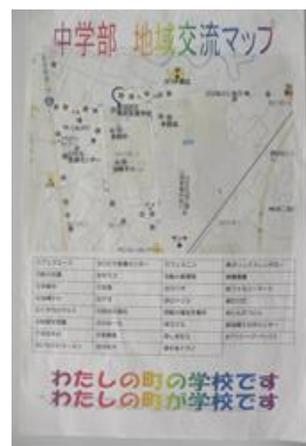
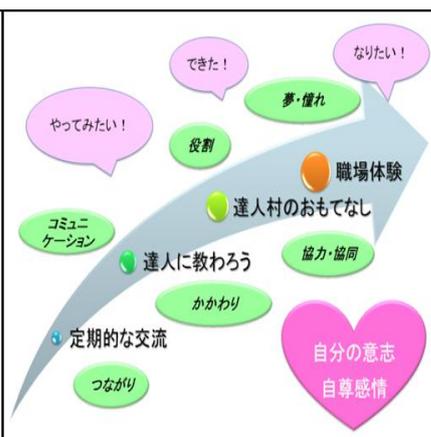
1 はじめに

本校は周辺に多くの学校や公共施設、商業施設等があり、その地域リソースを活かし、5年前から、「わたしのまちの学校 わたしのまちが学校」の具体化を目指して地域交流の推進を図ってきた。その結果、生徒は地域を知り、地域は生徒を知るよい機会となり、生徒自身の世界と特別支援教育に対する周囲の認識や理解とが広がりつつある。また、この交流を通して、自分にできることは何かを考え、その役割に取り組むこともねらいとしている。したがって、この豊かな地域資源を活用した交流活動は、生徒一人一人のキャリア発達につながっていくと考える。

これらのねらいの達成のために、単発ではなく、年間を通して地域と関わることができるよう、継続性のある年間計画を立てること、一方的にならず互いの人・物の行き来がある双方向の関わりを設定すること、を目指してきた。そのためには、総合的な学習の時間を中心として、生活単元学習、職業・家庭科、音楽科、作業学習等、他教科との横断的な学習活動の展開を推進し、体験的、継続的に活動を行うことが重要である。生徒が各教科で培った能力や技能を活用することができる授業を展開していくことで、総合的な学習の時間における生徒のより深い主体的な探求活動につながっていくと考える。

2 活動計画

	1 学期	2 学期	3 学期
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○自己紹介をしよう ○授業参観に招待しよう ○地域に花を届けよう ○スマイルフェスに招待しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○花の手入れに行こう ○職場体験のお願いに行こう ○達人授業のお礼に行こう ○いちょう祭に招待しよう ○職場体験のお礼に行こう ○地域に花を届けよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○新年の挨拶に行こう ○花の手入れに行こう ○「ありがとう集会」に招待しよう
	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイム ・ALT交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT交流 ・多賀中学校との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT交流
各教科等	<ul style="list-style-type: none"> 【職業・家庭科】 ○プランターカバー作り 【自立活動】 ○名詞作り 【音楽科】 ○英語の歌 【作業学習】 ○作業製品作り 	<ul style="list-style-type: none"> 【生活単元学習】 ○達人に教わろう ○達人村を開こう ○職場見学に行こう ○職場体験をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 【職業・家庭科】 ○味噌作り 【音楽科】 ○和太鼓体験 ○らぼーるひたちコラボコンサート



【他教科とのつながり】

【活動のイメージ】

【地域交流マップ】

3 実践事例

(1) ふれあいタイム（定期的な地域交流）

ふれあいタイムでは、地域交流を毎月1、2回、定期的に行っている。クラス毎に学校周辺の商業施設や事業所の中から3～4カ所の交流先を選び、挨拶に行ったり花を届けたりしている。年間を通し継続して交流することで、互いに顔や名前を覚え、交流の深まりや生徒の自信につながった。

① 年度初めは、進級・新入でクラスのメンバーも替わるため、自立活動の時間に作った名刺を持って自己紹介に行き、今後の交流をお願いした。新年には、年頭の挨拶に行き、各自の目標を伝えたりしている。



【交番にご挨拶】

② 地域に花を届けよう、花の手入れに行こう（7月、12月）
作業学習で土班が育てた花のプランターを夏と冬に、一輪車やリヤカーに乗せて届けた。プランターには、職業・家庭科の時間に生徒が協力して作った木製のプランターカバーを付けたことで、そこから会話が広がった。また、交流先の方々が届けた花を大切に育て、喜んでくれていることを知ることができ生徒の自信や喜びにつながった。



【プランター届け】

③ 招待状、依頼状、お礼状、作業製品を届けよう（7月、10月、11月、2月）

交流先の店舗や事業所に、授業参観や夏祭り、いちよう祭などの招待状を届けた。また、生活単元学習の学習活動を活用し、達人授業や達人村、職場体験学習の依頼を行った。そして、交流のお礼として、お礼状や作業学習で作ったエコタワシや刺し子布巾などを届けた。継続的に交流することで、他者との関わりに抵抗のある生徒や状況の受け入れに時間のかかる生徒も、少しずつ距離を縮めたり受け入れられたりできるようになってきた。

(2) 生活単元学習、職業・家庭等との連携

生活単元学習では、「働く」をテーマに「見る・聞く・体験する」の3つの活動を通して、自分にできることは何かを生徒自身が考えた。そして、交流先に依頼して、仕事の技を教えてもらう達人授業を行い、そこで教えてもらった技を基にいちよう祭で達人村を開いた。また、交流していることで、交流先の方々には、本校の生徒を理解いただき、

達人授業を円滑に進めることができた。生徒達も、交流先の達人を身近に感じつつも、その達人の技に驚きや憧れを抱き、自らやってみたいという気持ちが高まり、生徒の主体的、意欲的な活動につながった。

① 達人に教わろう (9月)

交流している店舗、事業所に出前授業を依頼し、六つの事業所（とんかつとん、深谷木材、菓匠たけだ、イナダスタジオ、アンジーヘアワークス、菅谷豆腐店）の協力を得ることができた。普段の交流はクラス単位で行っているが、視聴覚教材を活用し、仕事内容を説明したり写真を見せたりするなどして希望調査を行い、生徒の興味関心に基づいたグループ編成を行った。それぞれのグループで達人の巧みな技を「見て・聞いて・体験する」という活動の流れを通して、働くことへの憧れを抱き、主体的に体験活動に取り組み、将来の進路について考えることができた。

② いちよう祭達人村 (10月)

達人授業で教わった技術を活かし、「笑顔と感謝でおもてなし」をスローガンに、文化祭で「ウエルカム達人村」を開催した。「ヘッドマッサージMOMIMASU」「豆腐ナゲットマメドナルド」「木の子ハウス（木材加工）」など、生徒自身で店名を考え、和菓子店、写真館、サンドイッチ店など六つのブースを屋台村のように作って出店した。出店にあたり、「自分たちにできることは何だろう」と生徒に問いかけ、出店に必要な看板やポスター、スタンプカードづくりや接客の練習等、今まで達人に教わってきた体験を活かし、生徒自身が分担して仕事を行うなど、どの生徒も皆、主体的・協働的に活動することができた。

③ 職場見学、職場体験 (11月)

地域交流を進めている学校周辺の施設に依頼し、15カ所の事業所の協力を得て職場体験を行った。達人授業や達人村は、校内の活動であり、働くことへの期待や夢を膨らませるものであった。職場体験に先立ち、本校の卒業生が働く実際の職場に見学に行き、実際に仕事をする上で大切なことや、頑張って認められたときの喜びなど、先輩から生の声を聞いたことで、働くときに求められることは何かを知り、楽しさだけではなく緊張感をもって職場体験に臨むことができた。職場体験は、興味関心別に新たにグループ編成を行った。これまでに2回職場体験を行っている3年生は、体験依頼の電話のかけ方にも緊張しながらも余裕や自信があり、1年生にアドバイスする姿などが見られた。通い慣れている学校で行った達人村と違い、ほとんどの生徒が初めて訪れる職場である。そこで現場独特の緊張感を味わい、実際に働く人の仕事に対する姿勢を知ることができた。また、頑張ったからこそ得られる達成感や成就感を味わうことができた。

【達人授業の様子】



【いちよう祭 達人村の様子】



【職場見学の様子】



【職場体験の様子】



⑤ 味噌作り（2月）

市内老舗味噌蔵の内山味噌店（みずきの庄）の協力のもと、毎年味噌を造っている。できあがった味噌は、達人授業や職場体験のお礼に渡したり文化祭やバザーで販売したりするなど、交流に役立っている。

(3) その他の活動

① 多賀中学校との交流（12月）

年に一度、多賀中学校の1年生と交流を行っており、生徒は毎年この交流をととても楽しみにしている。多賀中生が用意してくれたいろいろなゲームコーナーを回りながら、多くの生徒と関わり、自然に打ち解けて笑顔で活動する姿が見られた。最後には本校で音楽の時間に踊っているダンスを多賀中学校生と一緒に踊り、充実した楽しい時間を過ごし、交流を深めることができた。

【多賀中学校との交流の様子】



② A L T 交流(6月、10月、1月)

本校では、音楽科を二時間続きで「鑑賞、うた、休憩、合奏、ダンス」という流れで行っている。その鑑賞で英語の歌に触れ、ダンスで踊った曲をA L T 交流でも活用し、交流を行っている。6月の交流では、英語の自己紹介の仕方を教わり、友達同士やA L T の先生と自己紹介をし合った。日本語では照れてできない自己紹介や握手が、A L T 交流という場を通して自然にでき、友達と関わるきっかけとなった。10月はハロウィンの月でもあることから、A L T の先生にハロウィンについて説明してもらいながら、ハロウィン関連の単語を学習した。また、ハロウィンのキャラクターカードを配付し、配られたカードのキャラクターになったつもりで自己紹介をしたり、仮装でダンスをしたりして盛り上がった。1月は新年の行事に関連づけて、アルファベットのかるた取りを予定している。A L T 交流では、簡単な英語での挨拶や活動などを通してA L T の先生や友達とふれあうことができ、異文化を理解し、積極的に人と関わろうとする態度を育てることができた。

【A L T 交流の様子】



③ なかよしタイム

クッキング、スポーツ、パソコン、ミュージック・ダンスのグループに分かれて隔週で活動している。友達との関わりの中で、互いを認め合ったり、協働の良さを味わったりしながら、自分の興味関心を広げるとともに、高等部や卒業後の余暇活動へ生かすことができるよう楽しみながら活動している。

4 成果と課題

総合的な学習の時間を軸に、地域資源を活用して各教科との横断的な学習活動を工夫し、選択の場を設けたり、体験活動を継計画的・継続的に取り入れたことで、自己を理解し、主体的、探求的に活動に取り組み、将来への夢や憧れ、希望をもつことができた。各体験の後には、パワーポイントを使って生徒自身が活動の様子や感想をまとめたものを発表する場を設けたことで、自己の理解を深めることにつながり、主体性や探究心をより深めることができた。今後は、小学部、高等部との連携を考え、より豊かな生き方につながる活動を取り入れていきたい。